

しょうをつんでだいとなす

積小為大



豊川市立東部小学校
校長室だより

令和2年9月号

始業式での読み聞かせ

9月1日(火)は二学期の始業式でした。前日の31日(月)も学校があったので、不思議な感じのする学期の始まりです。火曜日なので、にこにこ集会と同様の時間帯にいつものように放送で始業式を行いました。夏休み明け8月17日にも太平洋戦争の話をしました。始業式でも戦争にまつわる本の読み聞かせを行いました。本年度高学年の課題図書にもなっている「ヒロシマ 消えたかぞく」という写真絵本です。原子爆弾により一家全滅してしまった家族の写真を紹介する本です。広島原爆では14万人の人が亡くなりましたが、その数だけの人生があり、その人々の家族があり、8月6日の午前8時15分の直前まで、戦時下とはいえ幸せな日常が続いていました。作者の指田和さんはあとがきにこう書いています。

「鈴木六郎さん一家がいきいきと生きていた事実は誰にも消せない。いまからそう遠くない時代にこの一家のように戦争や原子爆弾で命を落とす人がいたこと。決してわすれないでほしい。」



ZOOMを使ってインタビュー

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事だけでなく、授業にも様々な影響があります。4年生のゴミ焼却場や浄水場の見学、5年生の自動車工場の見学も中止になってしまいました。

そんな中、3年生は地元の農業に関する授業で、スプレー菊の農家さんへのインタビューを、ズームを使ってライブで行いました。現地に行けない代わりに、教師がビデオで動画を撮影して紹介することは、これまでもありましたが、ズームを使って直接生の声でインタビューするのは初めてでした。

1組2組が同時にそれぞれの教室でテレビを見ながらの授業です。「菊が病気になったらどうしますか?」「一日に何時間くらい働きますか?」「どうして白い菊の出荷量が一番多いのですか?」「コロナの影響はありますか?」児童の質問に絵や写真も使いながら丁寧に答えてくださいました。ありがとうございました。

3年生はその後の「花き集出荷場」見学では、実際に現地に足を運び、ベルトコンベアで運ばれ出荷の準備を行う様子を直接見て学びました。



運動会の練習がんばっています

運動会もコロナ対策で種目の制約や時間の短縮、来賓や地域の皆さまの観覧を制限するなど、例年と違う形での開催になります。それでも子供たちは元気いっぱい運動場で練習をしています。暑さ対策で、練習時にもテントを張り、その下で給水しています。

9月も中旬になって、やっと朝夕に涼しい風が吹くようになってきました。運動会当日、さわやかな青空の下で練習の成果が発揮してくれることを期待しています。

2学期は運動会に続いて、修学旅行、学習発表会、PTA資源回収等の行事を予定しています。感染症対策を十分に行った上で、開催できるよう準備を進めております。ご協力をよろしくお願いいたします。

文責(校長 金澤哲哉)